

2013 年度第 1 回阪神地区研究会 報告

2013 年 9 月 4 日作成

日時：2013 年 8 月 9 日（金） 13:30～16:30

会場：三宮研修センター

テーマ：「大学図書館における学習支援の取組について」

…主にラーニング・コモンズの設置と活用について

講演 1. 「せまいながらも楽しいラーコモ：兵庫教育大学ライブラリー・ラーニング・コモンズ PAO の開設から運用まで」

永井 一樹（兵庫教育大学附属図書館職員）

【内容概要】

平成 24 年 10 月に兵庫教育大学附属図書館の一面にオープンしたラーニング・コモンズ PAO の紹介があった。図書館では入館者数の減少や利用の低迷を改善するため、図書館キャラクターやグッズの作成、website リニューアル、ロゴマークの制定等を行っていた。その中で全学的なラーニング・コモンズ設置計画が持ち上がり、文科省補助金に大学予算を加えた大規模な予算措置が取られることになった。PAO の特徴としては、空間・モノへのこだわり、サポートスタッフの活躍、ミュージアムとの連携があげられる。こうした取組により入館者数は伸びつつあるが、今後は、書架狭隘化対策、人的サービスの展開と持続性確保、授業連携、サービス評価の検討などが課題となっている。

講演 2. 「大阪大学附属図書館における“コモンズ”のひろがりとつながり」

末田 真樹子（大阪大学附属図書館職員）

【内容概要】

大阪大学の理工学図書館・総合図書館・外国学図書館の 3 館にそれぞれラーニング・コモンズが設けられている。それぞれのこの 4 年間の取組や学習支援についての紹介があった。総合図書館には大阪大学の理念である「国際性」を支援するグローバル・コモンズがあり、そこでの学習支援の取組事例なども紹介された。「ゾーニング」で利用しやすい環境づくりに配慮した空間を目指し、TA 講習会やグローバル・コモンズカフェなども開催している。その結果、学生にとっても参加しやすく、学生同士が知り合う場ともなっている。物理的なラーニング・コモンズはあくまで学習支援の結び目として捉え、学内の各部署と協働する必要がある。

参加校： 44 校（内、中国・四国地区 4 校）

参加人数： 59 名

以上